発話速度が聞き手の気分に与える影響

○今竹裕希¹, 永田陽子²

(¹駒澤大学大学院人文学研究科, ²駒澤大学文学部)

キーワード: 発話速度, 聞き手の気分

Effects of the speech rate on listeners' moods

Yuki IMATAKE¹, Yoko NAGATA²

(¹Graduate School of Komazawa University ², Komazawa University)

Key Words: speech rate, listeners' moods

目 的

発話速度に関する研究として、内田(2000, 2002)の研究がある。内田の研究では、発話者の発話速度、すなわち fast(基準値の 1.4 倍), original(基準値), slow(基準値の 0.8 倍)が聞き手に与える性格印象について、Big Five 尺度短縮版を用いて研究し、発話速度の違いが性格印象に影響を与えることを示した。一方、高木(2006)は、メッセージ全体の印象を 100 とした場合、言語内容が占める割合は 7%, 音声と音質の占める割合は 38%, 表情としぐさの占める割合は 55% としており、音声と音質は印象形成の約 40% と高い割合を示すことを示唆した。また、内田・中畝(2004)によると、音声コミュニケーションを媒介とした場面では音声そのものが発話者の特徴を推論するための主要な情報源となることを明らかにした。つまり、音声は発話者に対する印象形成において重要な役割を持つといえる。それでは、発話速度は印象形成だけでなく、聞き手の気分にも影響を与えるものであろうか。本研究は発話速度の違いが他者に与える影響、すなわち聞き手の気分に与える影響について検討することを目的とする。

方 法

実験参加者 私立大学生 23 名(男性 12 名, 女性 11 名, 平均年齢 18.57±.59 歳)。

刺激 音声は男性声と女性声の 2 種類を使用した。発話速度は fast(基準値の 1.4 倍速), original(基準値), slow(基準値の 0.8 倍速)である。発話文は「すみません, ここから駒澤大学まで歩いて何分くらいかかりますか」とした。

尺度 気分測定用の尺度として気分調査票(坂野他, 1994)を使用した。気分調査票は「緊張・興奮」, 「爽快感」, 「抑うつ感」, 「不安感」, 「疲労感」の 5 因子 40 項目(各因子 8 項目)で構成されている。「全く当てはまらない」から「非常に当てはまる」までの 4 件法で回答を求めた。

手続き 実験参加者に VoiceTrekV-822(Olympus)に録音された音声を呈示し、発話文を聴かせた後、気分調査票に回答させた。これを刺激 6 種類ごとに実施した。

結 果

気分得点を変数とし、発話者要因(男, 女)と発話速度要因(fast, original, slow)の 2 要因分散分析を行った。その結果、「爽快感」, 「抑うつ感」, 「不安感」においては、いずれも発話者要因と発話速度要因の主効果、及び発話者要因と発話者速度の交互作用に有意差は認められなかった。「緊張・興奮」(図 1)においては、発話者要因の主効果、及び発話者要因と発話者速度の交互作用に有意差は認められなかったものの、発話速度要因で有意差が認められ($F(2, 44) = 15.25, p < .05$), fast のほうが original($p < .05$)と slow($p < .05$)よりも得点が高かった。「疲労感」(図 2)についても、発話者要因及び発話者要因と発話者速度の交互作用で有意差は認められなかったが、発話速度要因に有意差が認められ($F(2, 44) = 3.66, p < .05$), fast のほうが original よりも得点が高かった($p < .05$)。

考 察

本研究では、「緊張・興奮」と「疲労感」において、発話速度要因でそれぞれ有意差が認められた。いずれも、発話速度 fast が original と slow よりも気分得点が有意に高かった。発話者要因で有意差が認められなかったこと、また、発話者要因と発話速度要因の間で交互作用が認められなかったことから、聞き手の気分に影響を与える要因としては、発話者の性別よりも、発話速度が影響しているといえる。また、発話速度が速いと、聞き手にとって緊張・興奮と疲労感が高くなることが示された。全体としてわずかではあるが、発話速度の違いによる影響がみられ、内田(2000, 2002)の先行研究と同様、発話速度の違いは聞き手に影響を与えることが示された。

引用文献

- 坂野雄二他 (1994) 日本心身医学会, **34**, 629—636
 高木幸子 (2006) 早稲田大学研究紀要, **51**, 25—36
 内田照久 (2000) 日本音響学会誌, **56**, 396-405
 内田照久 (2002) 心理学研究 **73**, 131-139
 内田照久・中畝菜穂子 (2004) 心理学研究, **75**, 397-406

図 1. 発話速度の違いによる気分得点(緊張・興奮)の変化

図 2. 発話速度の違いによる気分得点(疲労感)の変化

※本研究は平成 26 年度駒澤大学文学部卒業論文の一部である。研究をご指導いただいた駒澤大学文学部茨木博子教授に心より感謝致します。